

女性教員懇話会 ニュースレター

2012年度 第2号/2013年度 第1号
(2013年11月11日発行)

目次

ご挨拶	P.1	2012年度研究会の報告	P.4
2012年度報告	P.2	2012年度総長懇談会の記録	P.6
2013年度新事務局	P.2	事務局からのお知らせ	P.8
2013年度研究会のお知らせ	P.3	女性教員懇話会について	P.8



【ご挨拶】2012年度から2013年度へ

2012年度は、2011年度の事務局（高山佳奈子代表）が立て直してくださった事務局の仕事をそのまま引き継ぐ形で、研究会、総長懇談、総会を行うことができました。事務局は通常5人体制ですが、小泉明子さん（法）が8月いっぱい異動されたので、4人体制で進めました。無事終えることができたのは、見学美根子さん（iCeMS）、吉永直子さん（農）、岩崎奈緒子さん（博物館）のおかげです。

昨年度の研究会のテーマは「婚学を考える」。女性研究者が、結婚し育児しながらポストを得、仕事を続けられる環境は、以前よりは多少整ってきたと思いますが、いわゆる“出産適齢期”とキャリア形成期が重なるという問題は、以前と何ら変わっていません。それどころか、内閣府の「女性手帳」提案などによっていっそう論争的な問題になっています。その前にあるのが結婚。晩婚化、生涯未婚率の上昇などは大学教員にとっても無関係ではありません。2011・2012年度の研究会で取り上げた「リサーチ・ライフ・バランス」の一つ手前にある、この「結婚とキャリア」という古くて新しい問題について、研究会では、いろんな層の視点からざっくばらんに議論できました。ただし、2011年度のように、研究会での議論をうまく総長懇談につなぐことができなかつたのは、少々心残りでもありました。今年度の研究会に期待しています。

2012年度代表 松下 佳代（高等教育研究開発推進センター）

松下佳代先生の後任として2013年度の代表となりました見学です。昨年度の事務局から吉永直子さん（農学研究科）と私が残し、金光佳子さん（文学研究科）、船山典子さん（理学研究科）、水町衣里さん（iCeMS）が加わって、5人体制で再スタートしました。

今年の最大の目標はWeb化。毎年ニュースレターの印刷・郵送料で、皆様からお預かりした貴重な会費収入を上回る出費があることから、よりコストが掛からず、多くの方に簡単に懇話会の活動について知っていただけるホームページの立ち上げとWeb配信への移行に取り組みました。懇話会事務局に代々受け継がれてきた膨大な資料を5人で手分けして整理し、これまでの活動についても確認できた範囲で紹介させていただいています。30年以上に渡る諸先輩方の取り組みについて学ばせていただくことができました。ぜひ一度女性教員懇話会HPにアクセスしてみてください。

昨年度は「婚学」という新しい切り口で研究会を開き、活発な議論をすることができました。大学改革の直中に開催する今年の研究会は、この変革の中でこそ見える、最も大切な女性研究者支援とは何かについて、皆様と忌憚ない意見交換をしたいと思いますと考えております。研究会に先立って Web アンケートも行っています。是非奮ってご参加ください！

2013 年度代表 見学美根子（物質-細胞統合システム拠点）



2012 年度報告（活動報告・会計報告）

活動報告

ニュースレターの発行（10月5日）、第63回研究会「婚学を考える」（11月28日）、総長懇談会（3月12日）を行いました。

京都大学女性教員懇話会 2012 年度収支報告

収入	前年度繰越金	184,631 円
	会費納入	68,000 円
	内訳 49 名、昨年度分及び次年度以降分を含む	
	受取利子	36 円
	合計	252,667 円

支出	封入・配送費	35,692 円
	振込手数料	315 円
	宛名ラベル代	4,200 円
	振込用紙印字サービス	1,100 円
	研究会講師謝金旅費	50,000 円
	小計	91,307 円

	次年度繰越金	161,360 円
	合計	252,667 円



2013 年度新事務局

事務局メールアドレス：female-jimgroup@gmail.com

- 代表：見学美根子（物質-細胞統合システム拠点 内線 9832）
- 会計：金光桂子（文学研究科 内線 2818）
- 書記：船山典子（理学研究科 内線 3649）
- 研究会：水町衣里（物質-細胞統合システム拠点 内線 9784）
- 広報：吉永直子（農学研究科 内線 86307）

●●●●● 2013年度研究会のお知らせ ●●●●●

京都大学女性教員懇話会第64回研究会

大学改革期における女性支援の現状と今後を考える

京都大学女性教員懇話会では、今年も12月10日に研究会を開催します。
研究を取り巻く環境が大きく変わろうとしている中での女性支援のあり方について、みなさんと意見を交換したいと思います。

- 日時： 2013年12月10日（火）12:10～13:00（～14:00）
- 場所： 物質—細胞統合システム拠点（iCeMS）本館 2階セミナー室
（京都市バス「京大正門前」下車すぐ／東一条交差点 北西角）

主催：京都大学女性教員懇話会 協力：京都大学女性研究者支援センター

タイムスケジュール：

- | | |
|-------------|--|
| 12:10-12:20 | 趣旨説明 |
| 12:20-12:40 | 話題提供「女性 R&D エンジニアの働き方～うまく説明できないナゾ～」
藤本哲史（同志社大学総合政策科学研究科・教授） |
| 12:40-13:00 | 質疑応答&ディスカッション |
| 13:00-14:00 | 交流会 |

*お昼時なので、ランチ持参でお越しく下さい。

*研究会は一旦13時で終了しますが、お時間のある方は交流会もぜひどうぞ。

事前アンケートのお願い：

研究会でのディスカッションを円滑に行うために、事前アンケートを実施中です。
専用の Web フォーム（<http://bit.ly/16auqiy>）から回答をお願いします。
ぜひ、京都大学の女性研究者支援のあり方について、ご意見をお寄せください。
ご協力どうぞよろしくお願い致します。

話題提供者の紹介：

藤本 哲史（同志社大学総合政策科学研究科・教授）
理工系女性研究者・技術者のプロフェッショナル・コンフィデンスとキャリア形成に関する研究を
されています。

お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

女性教員懇話会第 63 回研究会

「婚学」を考える

今年度は「婚学」をテーマに、九州大学の佐藤剛史先生をお迎えして研究会を開催しました。2名の男子学生を含む様々な立場・年齢の教職員が30数名参加して、大学研究者の赤裸々な現状を交えつつ、結婚と「婚学」についてディスカッションを行いました。

冒頭で佐藤先生が、農業経済・農政経済から婚学を始めることになったきっかけについて、結婚・離婚・子育てに関する現状のデータと併せて紹介され、それから九州大学での婚学講義の内容をスライドで説明されました。

たとえば「できちゃった婚」について、情報や知識ではなく、自分の身に起きたらという視点でリアリティをもって学生に考えさせた授業では、実際にどうい問題があるかをロールプレイングしてみることで、他人ごととして批判するだけの姿勢から一歩進んで、男女ともに視野が広がったそうです。少し意識を変えるだけでできるようになる。そのきっかけ作りを婚学で実践しているとのことでした。

会場では、実際の授業で行われているコミュニケーション・トレーニングを2人1組で行いました。

- ① 自分が褒められて嬉しいことを5つ書く
- ② 3分間互いに徹底的に褒める

初対面での会話のノウハウであり、会話に対する苦手意識を薄れさせるという簡単なトライアルでしたが、会場からは「効果が待てない」という厳しい(?)コメントもありました。

そもそも、研究者を目指している人は出会いの場が無いという意見もありますが、出会えたら何でもいいわけでもなく、相手に求める条件を上げていくと、そんな相手はいなくなるという指摘もありました。また、京大のようなケースだと、キャリアが上げれば上がる

日時：2012年11月28日(金)
12時～14時

場所：総合博物館講演室

主催：女性教員懇話会

協力：京都大学女性研究者支援センター

プログラム：

12:00～12:10 挨拶

12:10～13:30 佐藤先生講演

ほど相手が引いていくという実際問題もあることから、



さらに自分を高めてくれるパートナーを探すのはもうやめた方がいいのではないかという「下山のススメ」に、会場から笑いが漏れました。

結婚できないという人がよくいるが、こういう人は全然本気が足りない、という厳しいコメントには返す言葉がありませんが、結婚で犠牲になることがある＝二律背反じゃない、結婚して家庭をもつことで段取り力や発想力など身につく能力もあるという励ましも頂きました。

その後、ディスカッションに移り、「OD で経済的に安定しないと結婚は難しい」という声に参加者から上がりました。男性は給料をとって家族を養えるようにならないと結婚できないという考えが現在もあるのは事実です。しかしながら、お金がなくても二人で稼ぐつ

もりで結婚していい筈で、今の時代、経済的に安定するまで待つと婚期がどんどん遅れることと、鬱・パワ



ハラなど、先の展望がすぐ変わる時代であることを考えれば、経済的安定性を求めるのは得策ではないという考えが示されました。

また、「非正規雇用だとパートナーを見つけづらい」という意見には、「学生を狙えばいい。女性が稼いで男性が専業主夫でもいい」という新しい見方もありました。

最後に出たコメントは、婚活市場で博士キャリアが非常にマイナスになるという経験をした女性からで、yahoo お見合いで結婚に漕ぎ着けたという実話も紹介されました。その時決め手にしたのは、自分がどうい

う人生を送りたいかという観点から、働き続けることを許容してくれる人であり、何より、人に愛された人生を送ってきた人を選んだということで、会場から拍手が起きました。

まとめとして、佐藤先生から、「産み時は確かにある。高齢すぎて産めなくなっていたら後悔するかもしれない。また、学歴が結婚の障壁になっていると思うなら、肩書きを全て捨てればいい。それで結婚できなければ学歴のせいではない。最近の例では親が反対しているカップルが多いが、家族の問題は非常に大事で、軽く見てはいけない」というコメントがありました。

最後に、懇話会代表の松下先生から。「別居結婚や子供が生まれなかった経験から、いろんな家族の形態があつていいのではないかと思うようになった。20代の頃はこうあるべき家族像があつたけれど、パートナーが信頼できる相手なら非常に幸せな家族でありえる」という締めくくりの言葉が印象的でした。

(文責 吉永)



2013年3月12日(火) 総長懇談会を行いました。

出席者

【総長側】

松本紘 総長

林信夫 副学長

塩見佳男 理事補

【女性教員懇話会】

松下佳代、岩崎奈緒子、見学美根子、吉永直子

まず冒頭に、懇話会代表の松下から挨拶を述べ、本年度の女性教員懇話会の活動（ニューズレターの配布・研究会）について状況を説明するとともに、昨年度の総長懇談会の内容についてポイントを再確認しました。その後、研究会担当の吉永から、研究会の内容について簡単に報告しました。

吉永： OD 問題にも関係しているが、晩婚化と経済的問題が結びついていること、適齢期に離れ離れになる別居婚のケースも多い。また、京大内のシングル率の高さも気になる。コミュニケーション能力の低さなどを指摘する声も多かった。

総長： 適齢期に子育てしにくい環境が問題であるというのは認識している。「婚学」という形が適切かどうか疑問だが、もっと違う形で男女が出会う場所というのがあっていい。確かに、研究者という生活に出会いがほとんどないケースはある。特定の人がいる場合にも、経済的理由・物理的距離が問題となるケースもある。どう解決するかという時に、ただ講師を呼んで喋ってもらうのではなく、ある程度（仕組みを？）デザインする必要がある。大学の学問として研究者に立場を与えるのは違和感を覚える。東大の先生で男女若い人を集めてパーティーをやっている人がいるが、おせっかいという意見もありそうでやりにくい。昔はダンス・パーティーというのが京大でもあった。機会をどう作るか？京大で既婚者の人はどうやって相手を見つけたのか？いい提案があれば聞くが、大学として公にというのは難しい。

松下： 出産・子育てという時に任期付だといろいろな問題が出てくる。京大でも例えば、2年間育児を取る時にそのお金を一旦大学に預けて、2年後に大学から出してもらおうという形はできないか？

総長： 外部資金の場合、そういうことをするのは違法になる。競争的資金のくくり、労働契約法、厚労省、バジェットの期限などの理由で難しい。ただし、子育て中など時間を削りながら女性が少しずつ働く場合に、その間の支援体制を作るのは可能。実際に、ジョン万次郎プロジェクトでは渡航中に研究室にできる穴を埋めるシステムがある。20件応募があった中で、代替教員の申請があったのは10件。上の問題にもこういう仕組みでいけるのでは？代替教員の場合、成果の帰属の難しさがあがり、代行する人にメリットがないなどの問題もある。京大で女性の比率は学生で25%なのに対し、教員では10%、300人。そのうち、出産年齢は100人として実際に育児をしているのは50人くらい。理系だと休暇を取らない人もいる。延長というのは制度的にクリアできるかどうかわからない。具体的な提案がほしい。

吉永： そのための全学的データがほしい

総長： 個人情報という扱いになるので大学としても入手できない。匿名でいいので要望をまとめて欲しい。

これについては次年度以降の課題としました。

続いて、別居婚に対する大学の取り組みとして、米国で行われている事例について見学が紹介しました。

見学： 別居婚について Howard Hughes で夫婦揃って子育て機関を乗り越えた例がある。アメリカの大学で見られるパッケージ雇用は、優秀な人を雇う場合にその相手も雇うという仕組みになっている。日本の場合は、むしろ逆で、夫婦揃ってしまう採用は阻む空気もある。

総長： 夫婦だからといって採用をやめるのは論外。ただし、採用は夫婦関係なく個々人で決めるのが原則。カップルというくくりがあると必ず能力に凸凹が出てしまう。凹の方が採用側のスタンダードを超えていない場合、批判は必ずある。教員じゃなくても別居婚の例は多々あるので、教員だけ優遇というわけにはいかない

潮見： 研究者の場合はやはり一人一人やることが違うので、雇用の問題としては難しい。社会全体が変わって、法律でカップルで雇わないといけないなんてことにならない限り、大学としても無理。

松下： 実際に別居婚をしていて、異動の度に距離を縮めるという例もある。

最後に、松下から、女性研究者支援センターの今後について質問がありました。

松下： 女性研究者支援センターは移転後どうなるのか？設立当時の理念に対して、現状では支援サービスのみになっている。

総長： 一旦センターには避難してもらって、新しい建物の1Fに、子供を預けられるようなシステムで入ってもらおう。支援センターはあくまで支援であり、ジェンダー研究などは他の機関にあるので、それとは別である。女性支援センターは女性の要望に応えるためのものなので、何を望んでいるかを知りたい。これまでに、病院にお願いして養護室を作った。病児保育、保育園の送り迎え支援、待機児童問題なども対処してきた。(病児保育？の児童数が限られている点について)、病院に一室を借りる際に、病院も組織なのでタダでというわけにはいかないの、一人分の雇用ポストを要求された。ただでさえポスト削減の現状では、簡単にもう一部屋とはいかない。

この問題についても、女性教員の具体的な要望を汲み取り、来年以降の課題としました。



お願い：「女性教員懇話会ニュースレター」をもっと多くの女性研究者へ！

京大で働く女性教員・研究者の数が増加し、就業形態も多様化するにしたがって、「女性教員懇話会ニュースレター」をお届けできていない方が増えています。WebサイトでのPDF版掲載も行っていますが、メール登録頂いた方にはメールで配信しています。お近くにまだ受け取っておられない方がおられましたら、ぜひ、メールアドレスをお知らせください。転送大歓迎です。
ご協力のほど、どうぞよろしく！

事務局からのお願いとお知らせ

- ◎ **年会費（各年度 500 円）の納入、どうぞよろしくお願ひします。振込用紙のほか、インターネットバンキング等によるご入金も受け付けております。**

振込先

郵便振替口座：01010-9-3258 名義：京都大学女性教員懇話会

※他の金融機関から振り込む場合

ゆうちょ銀行 一〇九店（イチゼロキユウ店） 当座 0003258

（金融機関コード：9900 店番：109）

メール会員の方で納入済年度が不明の方は、下記事務局宛にメールでお問い合わせください。
メール登録をお済みでない方には、宛名ラベル下部の数字で納入済年度をお知らせしています。

- ◎ **ニュースレター配信用のメールアドレスを登録してください。変更もお知らせください。迅速性、経費節約、事務局の省力化、すべての面でメールによる配信が合理的です。ご連絡はメールでお願いします。**
事務局メールアドレス：female.jimgroup@gmail.com



女性教員懇話会とは？

女性教員懇話会は、①京都大学に在籍する女性教員相互の親睦と交流、②各自が当面する諸問題についての情報の交換、③女性研究者の地位の向上と差別の撤廃を目的とする自主的な組織です。京都大学に在籍するすべての女性教員（助手・助教・講師・准教授・教授）および医員・技術職員・教務職員・非常勤講師・元教員を潜在的な会員として想定し、ニュースレターをお送りしております。当会は1981年に「女性教官懇話会」として発足して以来、女性教官の実態調査の実施と報告書の提出、セクシュアル・ハラスメント事件について事実の解明と性差別を撤廃するための委員会の設置などを求める「要望書」の提出、『女性教員・卒業生からみた京都大学——研究・教育環境調査から——』の刊行など、様々な活動を行ってきました。1982年以降は、毎年定例化して総長との会見を行っています。また、創立以来、研究会（年2回）などの実施により、専門分野を超えた交流と親睦の充実に力を入れてきました。法人化により「教官」という身分がなくなったことを受けて、2006年1月18日に名称を「女性教官懇話会」と変更しました。

話会」から「女性教員懇話会」に変更いたしました。

当会の一番の魅力は、日頃は触れることのない遠く離れた分野の研究の状況を垣間見ることができる点にあります。会員の思想・信条の自由を尊重し、会として政治的活動をすることはありません。女性同士で“楽しくお喋り”をする機会として、是非お気軽にご参加ください。

女性教員懇話会事務局（2013年度）

見学美根子（代表）・金光桂子（会計）・船山典子（書記）・水町衣里（研究会）・吉永直子（広報）

連絡先 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学 iCeMS 見学美根子 気付

女性教員懇話会事務局

Email: female.jimgroup@gmail.com